

園芸タイムリー情報

《6月中・下旬版》

平成30年 6月15日発行 第3号
 上川農業改良普及センター
 Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009
 E-mail asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
 HomePage http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm

全作物共通

- ①気温は中旬までは低温傾向で推移しますが、下旬頃から平年並みに回復することが予想されています。
- ②気温や日射量を考慮しながらハウス内の温度・湿度に合わせた換気を行い、生育適温の維持に努めましょう。
- ③晴天時は葉からの蒸散が活発になります。
曇天後の晴天時にはしおれが発生しやすくなります。土壌水分の不足には注意しましょう。
かん水は根域全体にいきわたるように行い、ベッド内にムラがないか確認しましょう。
生育期節によっては遮光資材の使用も検討しましょう。
- ④アブラムシ類・ハダニ類・アザミウマ類・コナガ等の害虫の増加が懸念されます。ほ場観察を行い適期防除に努めましょう。
- ⑤ほ場周辺の雑草対策を行い、耕種的防除に努めましょう。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

作物名	きゅうり・すいか・メロン																									
病害虫生理障害名																										
ハダニ類																										
発生状況	すいか																									
発生時期	きゅうり																									
発生時期	メロン																									
発生時期	6月上旬～																									
発生の状況・要因																										
<ul style="list-style-type: none"> ・葉の裏に寄生し、吸汁により葉の表に白いかすり状の斑点が現れる。増殖すると葉全体が黄変枯死する。 ・高温乾燥を好むため、ハウスでは露地よりも早く発生する。 																										
対策																										
<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。 ・ハウスでは、侵入しやすい出入り口やサイドなどの開口部付近を中心に、よく観察する。 ・薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。 <防除の一例> <ul style="list-style-type: none"> ●コロマイト乳剤 <table border="1"> <tr> <td>きゅうり</td> <td>1,000～1,500倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>すいか</td> <td>1,000倍</td> <td>収穫7日前まで</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>メロン</td> <td>1,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>2回以内</td> </tr> </table> ●ニッソラン水和剤 <table border="1"> <tr> <td>きゅうり</td> <td>2,000～3,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>すいか</td> <td>2,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>メロン</td> <td>2,000倍</td> <td>収穫3日前まで</td> <td>2回以内</td> </tr> </table> 			きゅうり	1,000～1,500倍	収穫前日まで	2回以内	すいか	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内	メロン	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	きゅうり	2,000～3,000倍	収穫前日まで	2回以内	すいか	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	メロン	2,000倍	収穫3日前まで	2回以内
きゅうり	1,000～1,500倍	収穫前日まで	2回以内																							
すいか	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内																							
メロン	1,000倍	収穫前日まで	2回以内																							
きゅうり	2,000～3,000倍	収穫前日まで	2回以内																							
すいか	2,000倍	収穫前日まで	2回以内																							
メロン	2,000倍	収穫3日前まで	2回以内																							

作物名	きゅうり・すいか・メロン													
病害虫生理障害名														
菌核病														
発生状況	すいかの葉の症状(H28.5.11)													
発生時期	中発生													
発生時期	5月中旬～													
発生の状況・要因														
<ul style="list-style-type: none"> ・茎や果実の花落ち部に白色のかび（菌糸）を生じて腐敗し、黒色の菌核を形成する。 ・20℃前後の比較的低温が続き、多湿の場合に発生が多くなる。 ・すいかやメロンでは、着果期を過ぎ茎葉が繁茂したハウスで発生が多くなる。 														
対策														
<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場周囲に明渠を設置するなど、排水改善に努める。 ・過去に発生したほ場では、観察を十分に行い、早期防除に努める。 ・換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。 ・被害茎葉や果実は見つけしだい除去し、ほ場外へ搬出する。 <防除の一例> <ul style="list-style-type: none"> ●セイビアーフロアブル20 <table border="1"> <tr> <td>きゅうり</td> <td>1,000～1,500倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>3回以内</td> </tr> <tr> <td>すいか・メロン</td> <td>1,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>3回以内</td> </tr> </table> ●カンタスドライフロアブル <table border="1"> <tr> <td>きゅうり・すいか・メロン</td> <td>1,000～1,500倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>3回以内</td> </tr> </table> 			きゅうり	1,000～1,500倍	収穫前日まで	3回以内	すいか・メロン	1,000倍	収穫前日まで	3回以内	きゅうり・すいか・メロン	1,000～1,500倍	収穫前日まで	3回以内
きゅうり	1,000～1,500倍	収穫前日まで	3回以内											
すいか・メロン	1,000倍	収穫前日まで	3回以内											
きゅうり・すいか・メロン	1,000～1,500倍	収穫前日まで	3回以内											

作物名	きゅうり・すいか・メロン	
病害虫生理障害名		
アブラムシ類		
発生状況		
発生時期	少発生	
発生時期	6月中旬～	

発生の状況・要因																															
<ul style="list-style-type: none"> ・葉の裏に群生し、吸汁による茎葉の萎凋、排泄物による葉や果実の汚染が発生する。 ・ハウス内は温度が高く、露地よりも増殖が早いので注意する。 																															
対策																															
<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。 ・薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。 ・ミツバチを放飼しているほ場では、薬剤散布を控える。 <防除の一例> <ul style="list-style-type: none"> ●チェス顆粒水和剤 <table border="1"> <tr> <td>きゅうり</td> <td>5,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>3回以内</td> </tr> <tr> <td>すいか・メロン</td> <td>5,000倍</td> <td>収穫3日前まで</td> <td>4回以内</td> </tr> </table> ●モスピラン顆粒水溶液 <table border="1"> <tr> <td>きゅうり</td> <td>2,000～4,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>3回以内</td> </tr> <tr> <td>すいか</td> <td>2,000～4,000倍</td> <td>収穫3日前まで</td> <td>3回以内</td> </tr> <tr> <td>メロン</td> <td>8,000倍</td> <td>収穫3日前まで</td> <td>3回以内</td> </tr> </table> ●サンマイルフロアブル（天敵を放飼している場合は使用しない） <table border="1"> <tr> <td>きゅうり</td> <td>1,000～1,500倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>すいか・メロン</td> <td>1,000～1,500倍</td> <td>収穫3日前まで</td> <td>2回以内</td> </tr> </table> 				きゅうり	5,000倍	収穫前日まで	3回以内	すいか・メロン	5,000倍	収穫3日前まで	4回以内	きゅうり	2,000～4,000倍	収穫前日まで	3回以内	すいか	2,000～4,000倍	収穫3日前まで	3回以内	メロン	8,000倍	収穫3日前まで	3回以内	きゅうり	1,000～1,500倍	収穫前日まで	2回以内	すいか・メロン	1,000～1,500倍	収穫3日前まで	2回以内
きゅうり	5,000倍	収穫前日まで	3回以内																												
すいか・メロン	5,000倍	収穫3日前まで	4回以内																												
きゅうり	2,000～4,000倍	収穫前日まで	3回以内																												
すいか	2,000～4,000倍	収穫3日前まで	3回以内																												
メロン	8,000倍	収穫3日前まで	3回以内																												
きゅうり	1,000～1,500倍	収穫前日まで	2回以内																												
すいか・メロン	1,000～1,500倍	収穫3日前まで	2回以内																												

作物名	あぶらな科野菜全般	
病虫害生理障害名	コナガ成虫	
		
発生状況	少～中発生	
発生時期	6月上旬～	
		 防虫ネット隙間の除草
	コナガ幼虫	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 幼虫が葉の表皮を残して食害する。 5月上旬以降に成虫の飛来が見られる。 5月下旬は高温・乾燥傾向で推移したことから、6月上旬から幼虫の発生が見られる。 幼虫の発生は8月上中旬がピークとなる傾向がある。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ほ場内外のあぶらな科雑草をこまめに除草する。 防虫ネット（目合い1.0mm）の効果を高めるため、侵入口となる隙間を作らないよう設置する。 トンネルかけの場合は、雑草によりネットが持ち上がるため、除草も併せて実施する（写真右参照）。 品目により薬剤の登録状況が違っているので、ラベルを確認してから使用する。 シアミド系（フレバソフフロアブル5等）への薬剤抵抗性個体群の出現があり、防除効果が劣る場合は他系統の薬剤に切り替える。 		

作物名	あぶらな科野菜全般	
病虫害生理障害名	キスジノミハムシ	
		
発生状況	少発生	
発生時期	5月上旬～	
	 キスジノミハムシ成虫 (体長2～3mm)	 こまつな葉部食害
		 ラデッシュ根部食害
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 成虫は葉、幼虫は根の表皮を食害する。 5月上旬より成虫の発生が見られる。 今後気温の上昇に伴い、被害の増加に注意が必要である。 7月～8月に発生がピークとなる傾向がある。 		
<ul style="list-style-type: none"> ●成虫期間：1～4ヵ月 ●卵期間：5～7日 ●幼虫期間：10～20日 ●蛹期間：3～15日 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 成虫の多発時は防除効果が劣るため、ほ場をよく観察し、発生初期防除に努める。 土壌施用剤は、土壌水分が極端に低下すると効果が劣るため、かん水管理に留意する。 ハウス内外の雑草や残さを適切に処分し、発生密度を高めないようにする。 忌避資材（サニーマルチ）の活用（右：写真ハウス下部）。 		
<p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●フォス粒剤 4kg/10a は種時全面土壌混和 1回（こまつな） ●スター粒剤 6kg/10a 定植時全面土壌混和 1回（チンゲンサイ） ●E.L.T. 顆粒水溶剤 4,000倍 収穫7日前まで 1回（チンゲンサイ・ターサイ・みずな・こまつな） 		

作物名	たまねぎ	
病虫害生理障害名	ネギハモグリバエ	
		
発生状況	少発生	
発生時期	6月中旬～	
	 ↑発生初期の症状	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 一部ほ場で発生が見られる。 発生初期は葉身に縦並びの白色小斑点（写真上）を生じる（食痕・産卵痕など）。 幼虫がふ化し、白色すじ状の食害が拡大する（写真下）。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 食害が拡大すると防除効果は低下するので、遅れずにスリップスとの同時防除をおこなう。 葉身全体に薬液が付着するよう、展着剤を加用する。 		
<p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●リーフガード顆粒水和剤 1,500倍 3日前まで 3回以内 ●ディアナSC 2,500～5,000倍 前日まで 2回以内 ※ いずれの薬剤も展着剤を加用する（まくびか 5,000倍）。 		

作物名	たまねぎ	
病虫害生理障害名	小菌核病	
		
発生状況	発生注意	
発生時期	6月中旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 下位葉から発病することが多く、葉身に小豆型の白色の病斑が形成され、しだいに拡大し周辺部の不明瞭な縦長の病斑となる。 病斑内側には白色綿毛状の菌糸が認められ、のちに病斑組織には黒色、1～7mmの薄片状の菌核が発生する。 5月下旬から6月上旬以降に曇りや雨の日が続くと多発しやすいので注意が必要。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 初発時期になる6月中旬から、予防的に茎葉散布を行う。白斑葉枯病と小菌核病の両方に登録のある薬剤を使用し、2回程度防除すると効果的。 		
<p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●ファンタジスタ顆粒水和剤 2,000～4,000倍 収穫前日まで 5回以内 ●カンタストライフフロアブル 1,000～1,500倍 収穫前日まで 3回以内 		

作物名	トマト類（大玉・ミニ・中玉）	
病虫害生理障害名	すすかび病・葉かび病	
発生状況	少発生	
発生時期	6月上旬～	
<p>葉表の病斑 葉裏のカビ 上：葉かび病 下：すすかび病 (病徴では判別困難)</p>		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 6月上旬からSC6-008ですすかび病の発生が見られている。 桃太郎8で葉かび病が継続的に散見される。 葉かび病抵抗性（Cf-9）のある麗月、SC6-008、キャロル10ではすすかび病の発生に注意する。 葉かび病抵抗性のない純あまやシンディスweetでは葉かび病・すすかび病の両病害が発生するので注意する。 葉かび病は20℃前後、すすかび病は27℃前後、共に多湿条件で発生しやすい。 下位葉から発生するが多い。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 整枝や摘葉により通気性の確保に努める。 微生物農薬やダコニール1000、ベルコートフロアブルを中心とした予防的防除を定期的に行う。 発生が見られた場合は、被害葉の除去と下記の治療効果のある薬剤等での防除を行う。 <p><防除の一例>（大玉・ミニ・中玉共通）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●トリフミン水和剤 すすかび病 3,000倍、葉かび病 3,000～5,000倍 収穫前日まで 5回以内 ●ファンタジスタ顆粒水和剤 すすかび病・葉かび病 2,000～3,000倍 収穫前日まで 3回以内 		

作物名	ナス科果菜類（トマト・ピーマンなど）	
病虫害生理障害名	ヨトウガ類	
発生状況	少発生	
発生時期	6月上旬～	
<p>食害の様子 中齢幼虫 卵塊</p>		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 6月上旬から産卵が見られており、上位の葉に食害が見られる。 卵は十数個から数十個をまとめて葉裏等に産み付けられる。 幼虫は、初めは群生して表皮を残して葉を食害するが、成長するに従って分散し、大きく食害するようになる。 初期は緑色の幼虫が日中も葉裏や生長点付近に見られるが、老熟幼虫は茶褐色で日中は株元の地中に潜むようになる。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 成長した幼虫には薬剤が効きづらいので、ほ場を観察し、発生初期に防除を実施する。 卵塊や集団でいる幼虫を見かけたら取り除くと被害軽減に有効である。 7月以降には主に果実を食害するタバコガ類が発生するのであわせて注意する。 		

作物名	トマト類（大玉・中玉・ミニ）	
病虫害生理障害名	灰色かび病	
発生状況	中発生	
発生時期	4月下旬～	
<p>果実での発生(左)と 茎葉での発生(右)</p>		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 6月上旬の曇雨天により発生が増加している。 枯死部分や摘芽時の傷口等から感染することが多く、茎葉や果実等に広がる。 発病適温は20℃前後で、多湿時や茎葉の過繁茂で風通しが悪くなった場合に発生が増える。 夜温が低く、朝に果実が結露するような状況で腐敗果が増加する。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ハウス内の結露を防ぐために換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。 枯れた花卉や被害茎葉・果実は見つけしだい除去し搬出する。 芽かきや摘葉は、晴天日の午前中に終わらせ傷口を乾かす。 曇雨天が続き、果実や茎葉が湿った状態になる場合は送風などにより茎葉を乾かす。 耐性菌の発生を防ぐためローテーション防除を行う。 		

作物名	ピーマン・ししとう・なんばん	
病虫害生理障害名	アブラムシ類	
近年の発生状況	少発生	
発生時期	5月中旬～ (7月上旬より増加)	
<p>ワタアブラムシ (下葉の葉裏に多い)</p>		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> ピーマンでワタアブラムシの発生が見られている モモアカアブラムシとワタアブラムシの2種類が主に発生する。 モモアカアブラムシの体色は赤、緑、黄で、生長点付近や上位の新葉などに多く見られる。 ワタアブラムシの体色は黒、緑、黄で、下葉の葉裏に多く見られる。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 多発すると防除が難しくなるので、ほ場を観察し初発を見逃さない。 発生初期は一部の株に寄生が集中するので、発生量の少ないうちは寄生された葉を取り除き広がるのを防ぐ 薬剤散布は、散布ムラのないよう丁寧に行う。 系統の異なる薬剤を組み合わせたローテーション防除を行う。 天敵資材を導入している場合は天敵への影響に注意して薬剤を選択する。 		

作物名	おうとう	
病虫害 生理障害名	葉の赤褐色斑点	
灰星病		
発生状況	花腐れと発病した幼果	
少～中発生	成熟期の被害果	
発生時期	6月上旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> ・落花期頃から葉に直径0.5～2.0mmほどの褐色小斑点を生じ（写真左上）進行すると斑点部分に穴が空く。 ・越冬した孢子や分生子が花や幼果に感染する（写真右）。長雨により果実への発生を助長する（写真左下）。 ・類似症状として「褐色せん孔病」がある。こちらの病害は、葉に斑点症状が発生し、莢変落葉する特徴がある。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ・伝染源を減らすため、発病部分、ミイラ果（前年の被害果）を見つけ次第摘み取り、園外持ち出しを行う。 ・薬剤防除は、降雨前の実施を基本とする。枝が混み合った場所（日当たり、風通しの悪い所）、下部の葉などに薬液がかかるよう、十分な散布水量を準備する。 ・薬液がかかりにくい樹では、日当たり、通気性改善のため、夏季せん定の実施を検討する。 		
<防除の一例> ●ナリアWDG 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●アフエットフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●オーシャインフロアブル 3,000倍 収穫前日まで 5回以内		

作物名	露地花き	
病虫害 生理障害名	食害例～ソリダコ～	
ハダニ類		
近年の発生状況	葉の表面に白いかすりや小斑点見られ、葉裏にはハダニが確認できる	
少発生		
発生時期	6～9月	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> ・一般的には高温期に発生が多く、葉裏に寄生する。 ・葉表はハダニ食害による典型的な白いかすりを生じる（上写真）。 ・発生ほ場の管理作業により衣服に付着し、他ほ場へ拡散、被害が拡大する。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場観察による早期防除を徹底する。 		
<防除の一例> ●ピラニカEW 2,000倍 発生初期 1回以内 ●カネマイトフロアブル 1,000倍 - 1回以内 ●ダニサラバフロアブル 1,000倍 発生初期 2回以内		

◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。

◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病虫害の発生を最小限に抑制しましょう。

◆この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。気象・土壌条件作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)

◆掲載されている農薬情報は、平成29年5月17日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

□■□■□ GAP手法の活用【農作業事故編】—農作業事故の防止は日頃の安全確認から— □■□■□

- ・作物の管理だけでなく、作業者の体調管理にも気を配りましょう。
- ・ハウス内の作業だけでなく、炎天下や熱のこもりやすい場所での作業時は家族等に居場所を伝えておきましょう。
- ・果菜類など、作物で視界が遮られるような場所では、ラジオを携帯したり、作業者同士の声かけを行いましょう。
- ・体調不良時は無理な作業を控えましょう。また、作業時は定期的な休憩と水分補給を忘れずに行いましょう。
- ・事故発生時は速やかに安静な状態を確保し、適切な処置を図りましょう。